

平成 28 年度 第 1 回堺市堺区区民評議会 会議録

開催日時	平成28年 5 月12日（木） 午後 3 時00分から午後 5 時05分
開催場所	堺伝統産業会館 2 階会議室
出席委員	岩田会長、川上副会長、桂委員、佐野委員、信田委員、間宮委員、 矢本委員、湯川委員
事務局職員	堺区役所 射手矢区長、泉森副区長、小尾堺保健福祉総合センター所長 (企画総務課) 大黒課長、大仲係長、藪主査、岩野主査 (自治推進課) 植松課長、湯川課長補佐
関係課職員	建築都市局 都市景観室 室谷主幹、増田主査
傍聴者	3 名
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 堺区長挨拶 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 28 年度の諮問について (2) 平成 28 年度堺市堺区区民評議会のスケジュールについて (3) 平成 27 年度の審議経過について (4) 町家に係る現状及び取組について (5) 応募型地域まちづくり支援事業について（報告） (6) その他 4 閉会
資 料	<p>次第、委員名簿、配席図</p> <p>資料 1 平成 28 年度堺市堺区区民評議会のスケジュールについて</p> <p>資料 2 平成 27 年度答申について（概要）</p> <p>資料 3 堺環濠都市北部地区における歴史的なまちなみの再生について</p> <p>資料 4－1 平成 27 年度応募型地域まちづくり支援事業(堺区)の実施報告</p> <p>資料 4－2 平成 28 年度応募型地域まちづくり支援事業募集要項(堺区)</p>

議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
区 長	<p>1 開会</p> <p>2 堺区長挨拶</p> <p>平成 28 年度第 1 回堺市堺区区民評議会を開催するに当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>岩田会長をはじめ、委員の皆様におかれましては、日ごろから市政、区政の各班にわたりまして、格別のご理解、ご支援をいただきまして、まことにありがとうございます。また、本日は公私ご対応の中、ご出席賜りましたこと重ねてお礼申し上げます。</p> <p>ご承知のとおり、堺市では昨年 3 月、さかい利晶の杜を、利休屋敷跡、与謝野晶子生家に近い、宿院にオープンいたしました。おかげをもちまして、ことし 4 月には、50 万人目のお客様をお迎えすることができました。</p> <p>今後は、堺を訪れた方へのおもてなしの心やにぎわいを地域の皆様、それから関係部局とともに大道筋や大小路沿道から、点を線に、さらに面へと広げ、区域全体を元気にしていくことが、堺区はもとよりオール堺の課題となっております。</p> <p>このような中、平成 27 年度は堺区区民評議会に置きましては、歴史的・文化的資源を活用したまちづくりのあり方につきまして、7 回にわたる会議を開催していただいて、さまざまな視点から闊達なご意見を、ご議論を頂戴いたしました。</p> <p>そして、地域の方が身近な町の歴史や文化を知ることで、地域にほこりや愛着をもつことが大切であること。また、大道筋を含む旧環濠地域やお茶の文化などの資源を一層活用するために、地域で活動している個人、団体、企業などが集まり、基本構想やアイデアを検討する場をつくることが重要であるとのことご答申を頂戴いたしました。</p> <p>今の堺にとって、まことに慈悲を得た答申をいただきまして、心より感謝申し上げます。</p> <p>今年度におきましては、昨年度の答申の具体化に向けたご意見を頂戴するとともに、町家の保全・活用も視野に入れた取り組みや仕組みのあり方、さらには地域に対する愛着や誇りの醸成などを重点的にご議論賜りたいと考えております。委員の皆様におかれましては、ご対</p>

	<p>応の中、昨年に引き続き、1年をとおした会議にご出席いただくことは大変恐縮でございます。我々職員一同精いっぱい努めてまいりますので、よろしくご指導いただきますようお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 平成 28 年度の諮問について</p> <p>岩田会長 議事 1「平成 28 年度の諮問について」でございます。本件について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p> 堺区長から岩田会長へ諮問依頼</p> <p>岩田会長 ただいま、諮問書を頂戴いたしました。これにつきまして、事務局から内容の補足説明をお願いいたします。</p> <p>事務局 (企画総務課長) 若干の補足をさせていただきます。</p> <p> 平成 27 年度、昨年度は歴史的・文化的資源を活用したまちづくりのあり方についてご審議いただきまして、今後の検討の方向性として、活用資源化の具体化に向けてテーマを絞って、引き続き進めること。特に、喫緊の課題である町家・まちなみの保全・活用については重点的に検討を進めることが必要であると答申をいただいたところでございます。町家は近年、老朽化が進み、取り壊しされるという状況も見られますことから、早期に保全に向けた検討を進めるとともに、町家活用も視野に入れた今後の取り組みのあり方・仕組みのあり方。また、町家への住民意識の向上についてもご議論いただきたいと思います。</p> <p> また、本年度の諮問は、町家保全の活用となっておりますけども、それ以外に町家の保全や活用が進んだ暁、その場合にさらに多くの人を呼び込むことのできる仕掛けづくり、あと、町家利用者へのホスピタリティ、近隣住民のホスピタリティのあり方などについても、できましたら視野を広げてご議論いただければと考えてございます。2月には本年度の審議内容を盛り込んで、2年間の結論として答申をいただければと考えてございます。</p> <p> 補足説明につきましては、以上でございます。</p>
--	--

<p>岩田会長</p>	<p>先ほどの諮問の内容及び今の補足の説明につきまして、何かご質問等ございませんでしょうか。特によろしいでしょうか。</p> <p>(2) 平成 28 年度堺市堺区区民評議会のスケジュールについて</p>
<p>岩田会長</p>	<p>それでは、先に進めてまいりたいと思います。議事 2 につきまして、平成 28 年度堺市堺区区民評議会のスケジュールについて、ご説明をお願いいたします。</p> <p>資料 1 について、事務局から説明</p>
<p>岩田会長</p>	<p>資料 1 に基づきまして、スケジュールの説明がございましたが、何かご質問がございますでしょうか。</p> <p>6 回の予定ですね。議員との会合は別にもう 1 回ということで考えてよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局 (企画総務課主査)</p>	<p>できれば、第 3 回の区民評議会と同時開催ということも視野に入れ、今後、調整させていただければと考えております。</p>
<p>岩田会長</p>	<p>わかりました。他に何かございませんでしょうか。よろしいですか。</p> <p>(3) 平成 27 年度の審議経過について</p>
<p>岩田会長</p>	<p>次の議事に進めさせていただきたいと思います。平成 27 年度の審議経過について、諮問事項の検討・審議を行う前に、ご説明をお願いしたいと思います。</p> <p>資料 2 - 1、資料 2 - 2、資料 2 - 3 について、事務局から説明</p> <p>(4) 町家に係る現状及び取組について</p>
<p>岩田会長</p>	<p>引き続き、案件 4 のほうも一緒に説明をいただいてよろしいでしょうか。町家に係る現状及び取組について、お願いいたします。</p> <p>資料 3 について、都市景観室から説明</p>

<p>岩田会長</p>	<p>去年度の審議の経過について及び町家に係る現状及び取組についてということで、今、ご説明をいただきましたけれどもまず、内容について何かご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>これらを含めて審議事項の内容に入りたいですけれども、その前に何かご質問等ございませんでしょうか。よろしいですか。</p>
<p>岩田会長</p>	<p>それでは、今日は町家保全・活用のあり方について今後の評議会で検討すべき視点など、それから検討の方向性などについて審議を進めていただきたいと思います。活発なご意見を頂戴できればと思います。いかがでしょうか。</p> <p>今のまちなみ再生事業の中身でないのですが、資料で、重点経路や網かけで地区が示されていますが、大体どれくらいの距離で何軒くらいのそういう物件が残っていますか。</p>
<p>都市景観室</p>	<p>この助成事業の対象といたしましては、図面で言う事業地区全体が対象の範囲になっているんですけども、補助制度の内容としては、波線で囲んであるという部分が全部の対象なのですが、ただやはりこれだけの広い範囲を一度に進めていくというのはなかなか難しいところもあって、その中で赤い重点路線というのをまずは決めて重点的に進めましょうと言うことで、その重点路線沿道の住宅を重点地区の範囲ということで考えておましてそこには少しやはりそこには補助金の上限額を重点地区外よりも少し引き上げた形で計画はしております。その中で今事業として進めさせていただいて、昨年度、先ほどご紹介した1件なのですけれども、今、並行してご相談いただいている物件もございますので、そういったところで引き続きどんどん進めさせていただければというふうに思っております。</p>
<p>岩田会長</p>	<p>大体想像に長い距離で200メートルぐらいの感じですか。</p>
<p>都市景観室</p>	<p>そうですね、縦に入っていますいわゆる大道筋ですね、綾ノ町から北側に上がっているこの筋で大体200メートルぐらいはあろうかというふうに思います。</p>
<p>都市景観室</p>	<p>エリアとしまして、約40ヘクタールありまして、先ほどの軒数の話なんですけれども、当初は290軒ということで調査のほうは進めてお</p>

	<p>ったんですけども、調査していく中でも取り壊される物件も出てくる中で年々減っている中でしたので、正式には何軒対象というふうにはしておりませんが、一定の集積を見込んでいる 40 数ヘクタールをエリアとして補助対象のほうを決めております。</p>
岩田会長	<p>わかりました。ご質問等いかがですか。</p>
佐野委員	<p>地図上の茶色の区画のところは町家となっているんですけども、これは平成 24 年度の分となっておりますが、これより本年度は減っているかもしれないということでしょうか。</p>
都市景観室	<p>そうですね、外観調査で先ほど紹介しましたときいわゆる看板建築見た形で本当の実態というのはなかなかわからないというところもありまして、それはなかなか家まで入って行ってという調査まではしていないんですが、今、委員おっしゃられていたように消失している部分もあります。</p>
間宮委員	<p>ちょっと今理解できないところがあるんですけども。その文化資源を生かしたまちづくりをしていこうという中で大道筋と町家にちょっといきついているところがあると思うんですね。この資料は北部地域にこういった町家が残っていて周りの地域で既にこういった活動はされているということですよ。ここ協議会は一部であると思うんですけども、多分協議してきたのはここは集中的にありますけども他にもそういった資源があるのではないかなど。お寺とか出ましたけれども、それを例えばここみたいに協議会をつくってどんどん活動していき、そういったものを堺区全体で広めていこうという話だったのかなと思っているんですね。</p> <p>多分、始めのころはそうだったんですけど、この地域に絞られてきているので、ここのことを評議会ですべてこれからどうしていこうということではないですよ。これひとつの例としてこういうことが既に行われていると。</p> <p>こういった形で、堺区全体に町家だけではなくて、いろんな資源があるので、評議会ですべていこうということでもいいですか。</p>
事務局 (企画総務課長)	<p>この都市景観室っていうのは、建築系のハード系の部門でございます。ですから、いろいろ町家の改修については、ハード系の補助金を</p>

<p>間宮委員</p>	<p>出すと。当然、この町家の再生というのは、それだけではないと思いますので、どちらかというと、公共の限界みたいなどころがあります。そこは民の方、企業の方がそれについてどういにかかわりをもつかということをごここで闊達なご議論をいただければと思っております。</p> <p>前年度の話では、最終的には民のほうで進めていくんですけども。こういったなかなか町家というのは、持っている方が自分で何かをしていこうということではないので、そこを民間と行政と一緒にタッグを組んで見つけ出して、それを活用できる人に紹介したりしていく。その中で、大道筋もお寺もいろんなものがあるんで、それも同じ仕組みでしていけたらなということだったと思うんです。</p> <p>前年度でそういうことをやっていたところ、魅力的なものを掘り出しました。ことしはそれをどういうふうにすればこの北部地域のように冊子をつくったり、修景されたりできるのかをどうするかということですね。そういう議論でよろしいですか。</p>
<p>事務局 (区長)</p>	<p>そのとおりです。</p>
<p>岩田会長</p>	<p>景観室のほうも多分、ハードの話だけではないような気がするんですけども。具体的にそういうことを進めていって成果が出ていることを評価しながら、全体を広げるといってもないような気もするんですね。どこかをもう少し視点をきちっと定めながら全体に広げるといのか、目を配るっていう、そういうことなんですね、</p> <p>具体的にそうすると、あとどんなところがあるのかなっていうところがちょっと気になるころではあるんですけど。町家の保全・活用の対象で出おけているとか、対象とすべき場所とか、そういう情報を教えていただけるとありがたいなと思うんですけど、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局 (企画総務課長)</p>	<p>地図でおとしこんでいるというのは、これが一番今のところ見やすい、我々をご提示できる資料なんです。当然、これ24年の資料なので、そこからいろいろかわっていったということ。行政が今現在、協議会と取り組んでおるのは北部地域ということ。エリア的に、この他のところというのは、奥まったところには点在はしておるんですけども。今、間宮委員がおっしゃったように、このモデルケースを</p>

都市景観室	<p>下にも広げていくという議論ではないということをご理解いただけると思います。これは、修景補助で再生した例ということなので、こういう手法以外にも町家を活用した活性化とか、先ほど私が申し上げましたように、その意識醸成みたいなものを各それぞれの専門の分野の方がいろいろご議論をいただいて、我々のほうにご指導いただければと考えておるところでございます。</p> <p>資料3で、堺環濠都市地域の簡単な地図を載せておるんですけども。その中の破線の部分で、今、まちなみ再生事業として取り組んでいる。ここの町家の状況というのは、おおむね右下の点正在しているところで、おおむねは合っているのかなと。</p> <p>他の地区に関しては、正直調査というのは多分どの部署もまだできていないといえますのは、他の地区は、堺市の戦災図において、戦禍にもあっているということで、もちろん残っている町家はあるかと思うんですけど。やはり、かなり点正在しているような状況で、要は非常に少ない状態なんじゃないかなと思うんですね。</p> <p>ですから、我々が今まで進めてきたまちなみ再生事業というのは、まちなみを再生していくということですので、やはり町家いわゆる町家が多く存在がして、町なみが再生できる、そういう地区でないとなかなか事業が成立しないということで、地区はこういう北部にということにさせていただいています。ソフトの部分、町家が点正在している部分でもできる部分については、他の部分でも確かにあるかとは思いますが。ただ、戦禍にあっているということで、北部とはまた違う形なのかなというのは思います。</p>
岩田会長	<p>この北部の地区の年代というのは、さっき3つに分けて言われていましたけども、いろいろ混じっているんですか。それとも、この年代が多いのとかはあるんですか。</p>
都市景観室	<p>やはり、3つの段階に分かれていますけども、京都なんかは逆にかなり新しい建物が多いんですけども。京都と比較したときに、堺市のほうが古い建物については多いんじゃないかということに思っております。ただ、本当の詳細の調査まで、いわゆる文化財的な調査までができていないわけではございませんので、その建築様式を見ながら、先ほどの厨子二階、総二階という形で分けた場合に、そういった建築年代というのが推定されるのかなという、そういうレベルでの仕分けで</p>

<p>川上委員</p>	<p>ございます。</p> <p>もともと、評議会の視点は、文化資源を次世代に継承してそれを生かす方法というようなことで考えていたと思います。その中のひとつが、町家でした。なので、北部地区だけを考えていても、堺区が訪れたい、住みたい、働いてみたい、子育てしたいまちになるのかどうかというのは、疑問を感じます。</p> <p>今北部のほうで色々なことをしています。そこで、さらに評議会で何かやることがあるのかと考えると、難しくて意見が出なかったんです。大道筋沿道に関するアンケートを集めていますけど、これは町家にはそんなに関係ない人たちが多く含まれているようです。その辺がどうかと思います。まず、評議会では何を検討するかが決まると検討しやすいのではないかと思います。</p> <p>議論してきたことが方向転換したのかなと思って、ご意見が活発に進んでないのだと思います。</p>
<p>間宮委員</p>	<p>議論してきたことが方向転換したのかなと思って、だから多分とまってると思うんですね。</p>
<p>事務局 (副区長)</p>	<p>ひとつには、昨年度の大変ご関連なご意見をいただき、その中で特に町家についてもうちちょっと深掘りして考えませんかというようなご議論があったと思います。</p> <p>今回、ここで出させていただいているのは、特に北部地域の周辺というのは、その町家とかが集中して残っている地域ですが、ただ集中はしていないけど大道筋の周辺にもいっぱい町家もあると思うんですね。その数的には少ないかもしれないんですけど、残存しているところがあると。だから、集中している地域は集中している地域なりのまちづくりというのはできると思うし、今回点在している部分については、点在している部分でのまちづくりというのもできるのではないかなといった部分があるかと思います。今現在、集中しているところはやっている。点在している、少ないところについては、新しい部分とまた古い町なみも含めて、そういったやつをミックスしながらどういったまちづくりができるかとか。</p> <p>あるいはもともとの住んでみたいまち、来てみたいまちっていった部分で魅力あるまちにするためには、どういうふうな手法ができるのかといった部分でのご議論をしていただければと思います。</p>

	<p>前に委員のほうからも所有者と、あるいは何か活用したいといった人を引っつけるような役割とかできないかなというようなご議論もあったと思うんですが、そういった部分も含めまして残っている町家を活用する。あるいは、そういった人と人を結びつける。あるいは、新しい家と古い家と古い町家をくっつけるような取り組みなど、ご意見をいただければ非常にありがたいかなというふうに思います。</p>
佐野委員	<p>この環濠北部、七道駅の向こうの鉄砲町に、イオンができていますけど。そこの集客、主婦の方とかいろんな方の集客があるので、それも踏まえてのこの環濠北部がどのように使えるかなということも考えていくってことでいいですか。</p>
事務局 (副区長)	<p>そういった視点も含めて人が集まってにぎわうような通りになればというようなところでご議論いただければありがたいかなと思います。</p>
岩田会長	<p>先に紹介いただいた北部地区のそのイオンとの関係ってお話が出てきましたけれども。例えばイオンの周りの交通量がふえるとか、イオンに行く方がそこをとおるといふようなことはないかもしれませんが。何かつながりが生じるような可能性みたいなのはあるんでしょうか。</p>
川上委員	<p>高須神社駅の乗降客がわずかながらふえたという話はこないだ聞きました。多少関係あるのでしょうか。</p>
事務局 (副区長)	<p>例えば、イオンに来てくれた方がたくさんおられる。少し足をのびしたら、こんないいところあるんですよというようなアピールはしていければ、一歩が二歩に、二歩が三歩にふえていくような形の取り組みですね。例えば、これはイオンを中心とした場合ですね。それ以外にも、利晶の杜を中心として、ちょっと一歩行ったら、こんないいところがある。また、もう二、三歩行ったら町家もあって、海外の人でもここやったら泊まれるんですよとかね。そういったまちづくり的なご提言をいただければありがたいなというところです。</p>
間宮委員	<p>その地域は、町家を利用したカフェであったり、家具屋さんができたり、いろんなところから来られている吸引力はある。それがもう少</p>

<p>事務局 (区長)</p>	<p>シエリアとして広まっていけば、魅力的な資源になると思いますけどね。</p> <p>今まででしたら堺駅と堺東駅、そして宿院、それから大小路の辺り、そのあたりが注目されていましたが、やっぱり北のほうと南のほうに、それぞれサブ拠点みたいなところが必要かと思う中で、七道駅のところがイオンができて、人の目に触れる機会が多くなった。そして、今、副区長が申しあげましたように、では、少しまちなか行ってみようかとかですね。あそこから歩いて山口家住宅であったり、鉄砲鍛冶屋敷、それから昆布屋さんとか線香屋さんとか、刃物屋さんもごございますし、しゃれた古い建物もあって、そこでいろいろとカフェを出していただいていたたり、そういうおもしろいものもたくさんございまして、もう一度視線を浴びるひとつのきっかけかなと思います。我々としたら、それを機会と捉えて、さらに展開していくようなことをちょっと考えていきたい。その知恵をいろいろと拝借したり、我々から材料を提供させていただいたりすることで、点・線・面とつながるような展開を期待していきたいな思っております。先ほど、北のほうの七道が出ましたけども、高須神社とは道路で結ばれていますし、そこには青いラインを引いて自転車で通る道も今できてございます。そういったところと大道筋とのつながりをどうしていくかとか、そういったことがご議論していただければなというふうに思います。</p>
<p>事務局 (副区長)</p>	<p>今回諮問事項を初めてお示させていただいております。ですので、今は自分が思いつくようなことを言うていただくこととあわせまして、次のときにこうしたらいいのではないかというようなことを温めていただいご議論、ご意見いただければ非常にありがたいと思います。視点的には、最終的には来たいまち、住んでみたいまちってところで考えていただける魅力的なまちにしていきたいなというところでのご議論をお願いしたいとのことです。</p>
<p>川上委員</p>	<p>協議会との関連はどうなるんですか。</p>
<p>事務局 (副区長)</p>	<p>先ほど町家の多いところについてはそういった部分で、補助金とかも入っているような状況です。少ないところの分で何ができるかといったところでのお知恵を拝借したいということですね。</p>

川上委員	神明町の東側あたり、これ結構かたまっていますけど、ここどうなんですか。ここには、結構大きいお宅もありますよね。
佐野委員	大分なくなっていますよね。
川上委員	そうなんですか。ここは、観光に生きていないです。
佐野委員	そうですね。
事務局 (副区長)	今委員おっしゃっていただいたみたいに、観光に生きてないということなら活かすような術を何かご提言いただければと思います。この辺が薄いのではないか、もっとこういうことをすればよいのではないかなど、お知恵を拝借できればと思います。
信田委員	町家の協議会というのはいまできていて、町家を少しずつ修復している。評議会としては、それをいかに利用して、活性化をさせていく方法みたいなのを考えていくということですか。
事務局 (副区長)	先ほどの説明がありました通り、町家が集中して多いところは取組を進んでいるのですが、どちらかといえば、区民評議会の守備範囲としては、少ないところで、どうすれば町家を生かしたまちづくりができるかといったところに視点を重点的に置いていただきたいところです。
信田委員	ポツンポツンとあって、あっちもこっちもありますというところをまちづくりに活かしていくというのはすごく難しい。集約しているところ、高須神社と七道の駅の間の通りだったら、流れの中で、何か生かせるかなとか、鉄砲町に来た人がこちらのほうへちょっと足をのばしてみようかなというそういう機会はあるかなと想像ができるけれど、少ないところでは、なかなかお金をかけた割に利用者が少ないということも考えられるのではないかと思います。評議会が何を考えるかっていうことをもうちょっと集約していったほうが、意見が出しやすいなと思ったりしますけれども。
間宮委員	多分、前回のときもちょっと話出たと思うんですけども。いわゆる、町家イコール空き家とかは、古くなって使いづらくなっているって

	<p>う代名詞ですよ。でも、特に堺の町家の場合は立派なものが多い。それを誰かが見つけて、そこを使って何かをしたい人と結びつけるのが一番だと思うんですね。ふつうの土地とかマンションとかやったら不動産屋さんが、価値があるから、もうかるからそれをどんどん商売としてやっていきますけども。この町家というのは、一般的にはもう価値が少ないものになっているわけですよ。でも本来は、観光とかまちづくりにとっては、すごく資源として残っているので、行政がそれに目をつけて、それに対してそれを使いたい人を紹介してあげたら、両方ともうまくいくという。そうすることで堺市らしいまちが順番にできていくというふうな仕組みをどうするかですよ。これは、どこかのマンションがあいているから誰か入らないかっていう話だったら民間でできると思うんですよ。でも、町家は堺の資源なので行政のほうが、仕組みとして、何かセンターみたいなものをつくるのか、冊子つくるのか、そういう部署をつくるのか。どうやってやったらそれはできるのかっていうものをどうやってつくるかというのを一緒に考えていけば、ちょっと動くんじゃないかと思います。</p>
<p>事務局 (副区長)</p>	<p>前回のお話の中で、そういったところが必要と違うかというところでの流れになっておりますので、そういった部分でのご議論をお願いしたいと思います。</p>
<p>間宮委員</p>	<p>きょうは期待してきたのは、前年度の評議会の内容を受けて、こういう部署ができましたとかね。こういう人材が1人ポストつくりましたとかね。それぐらいまでいっているのかなと思っていたんですよ。でも何かちょっと違ったんで。</p>
<p>事務局 (副区長)</p>	<p>昨年度は、いろんな意見をお聞かせさせていただく場づくりをしましょうといった部分で、大道筋での場づくりというのを今進めているところで、近々沿道の方にお集まりいただいて、意見交換をさせていただこうかなっていうところがひとつ。去年の答申でいきますと、そういった部分を進めさせていただいています。</p> <p>今回は町家をどういうふうにも活用できるかという部分をもっと深掘りしようというところなので、深掘りする中で、職員がいるなら職員がいるとかいう話を、予算が要るのであれば、予算が要るということでの話をしていけないといけないと思っています。去年答申いただいた部分については、今ちょっと着々と進めようとしているところです。</p>

	<p>それと、ことしについては町家について深掘りをしていただくといった部分で、間宮委員とかおっしゃっていただいている分を膨らませていただく形での議論をお願いしたいと考えています。</p>
間宮委員	<p>ことは何か最終的な着地点はあるんですか。そういうものができるとか。</p>
事務局 (副区長)	<p>そういった部分を皆さんでご検討していただけたらと思います。</p>
間宮委員	<p>もちろん議論しながらやっていくんですけども、ことはここまではやっていきたくないか、それをつくるにはどうしたらいいかという話なのか、何をしていきましょうかという話のほうをどんどんやっていきたい。</p>
桂委員	<p>一応諮問事項にもあるように、町家の保全と活用のあり方、ここへ収れんしていかないといけないでしょう。そうしたら、この回数から見ても、もうそこにポイントを絞るか何かしないと広い範囲でそういうのも含めてやっていただけないですけども。これに関しては、関連づけたものにならないと。もう諮問されているんですから、町家の保全と活用に関連しないといけませんよね。あと、このパンフレットを見ても、町家というけれども、町家以上に寺が多いですよ。古い建物といえば。ここの錦校区のところなんか軒並みお寺で、寺町通があって、待合所に建てかえも進んでいますけどね。実際、こうやって取り組んでくれている町家の部分はいいですけど。皆お寺ばかり。私の校区の中にお寺1軒しかないけど。あそこやったら100軒くらいありますよ、ひとつの校区でね。せやから、それで皆お住まいになっていますからね。それを町家というんかどうかは、知りませんが。</p>
間宮委員	<p>町家でもいいと思いますけどね。</p>
桂委員	<p>壁からして皆古い。江戸時代からの壁ちがいますか、あれは。塀というか。</p>
佐野委員	<p>それでしたら、去年間宮委員がおっしゃっていたお寺のところでイベントを開催してってということとかもいいと思うんですけども。</p>

間宮委員	それは広げていこうということですね。
事務局 (区長)	そうですね。シンボリックな町家というのをとりあげまして。
桂委員	取り組んでありますしね。他の自治体も今。
事務局 (区長)	<p>修景という面では、北部を中心にやっています。それに加えて、ちょっと置かれていたままになる町家をいかに活用するか。それを使いたい人と持っている人とどうマッチングするか。狭い意味では、そういうマッチングするための仕組みづくりというのは、主要なひとつの我々の思い描いているひとつのあり方かなど。それは、ひとつの軸であると思います。</p> <p>それに加えて、今、桂委員がおっしゃったように、お寺というのは非常にたくさんあって、それがまさに環濠のところにつくられていて防御の仕組みも担っていたというところで。もともとですね。そういうのがありますので、それがある程度連続している。それらをどうつないでいくかということで、我々町家ということでシンボリックにそれをよくしていこうというふうに言っています。</p> <p>大きな目的というものに立ち返っていくと、堺をいかに歴史文化を生かして魅力あるところにするのか。そしてそこからにぎわいをどうつくっていくかということが大きな目的でございますので、それを、町家を軸に考えていただいて、また、去年からご議論いただいておりますお寺などを活用した新たなイベントであったり、新しいものと古いものがマッチして、そして空を生かしてそれを埋めながらにぎわいをつくっていく。創出させていこうという、そういう取り組みなどを具体的なところでご提案いただけたら、非常に我々としてはありがたいなと思います。そして、行政ができるところは行政がやり、民間がやっていたところは民間がやる、協力していくところは協力してやっていくと、そういったところの整理と言いますか。そういったところまでやっていただけたら、なおありがたいなと思います。</p>
川上委員	現場を見て書いている図には町家の範囲とかがいっぱいあって、意見も書いてあるので、参考にしながら実現可能なようにしたいですね。

<p>間宮委員</p>	<p>実は、たまたまなんですけど、去年11月ごろに料理屋さんがどこかに移転したいっていうお話ちょっといただきまして、それだったら新しいビルよりも町家を改装して、やられたらどうですかという話にたまたまなって、ちょうどここずっと西へ行ったらザビエル公園ちょっと越えたところに古い町家が1軒残っているんですよ。よく知っている不動産さんがあって、ずっとあいている町家貸してもらえるか一回聞いてもらえませんかというたら、紹介してもらったんですけど、もうこんな古いところは貸されへん、貸されへんっていうんですけど、中見せてもらったら、庭もあって、すごいいいんですよ。それはちょっと息子さんと相談するということで一旦なくなったんですけどね。また、別にはなるんですが、その近くに町家が残っていたんですが、半年前まで住んでいたけどもかなり老朽化しているんで住まれているということ、紹介してもらったらもう貸してもいいよということで、借りるようになったんですよ。それってほんまに偶然の出来事なんですけども。その持ち主も置いといても仕方がないし、潰そうかなと思ってた。潰しても何もすることないんでという話で、ちょっと僕のところの会社で借りて、今ちょっともう工事やっているんで、また機会があったら見ていただいたらいいと思いますけれども。泊まれる施設にしようと思っていて、申請をしています。一応、改装して9月ぐらいに宿泊所にしようかなと思っています。それってやっぱり、僕個人がこういう仕事をやっていたからできたと思うんです。そういったことってなかなかタイミングって偶然の偶然しかなかなかできないと思うんですけども。できたらお互いにすごくウィンな関係でいいと思うんですよ。そういうようなものをなかなか個人ではできないし、民間ではできないんで、何かうまく組織としてやっていけばどんどんできるのではないかなと。改修は僕のほうでやっているんですけども、10年間借りるという話になっています。前にちょっと小さなカフェをつくって、それをまたカフェをやりたい子を募集してやらしてもらおうかなと思って。たまたま何かそういう機会があったんでね。本来はそういったものをみんなでやっていったほうがいいんですけども。そういったことをもう少し組織的にうまくやっていけばどんどんお互いにいいものができていくのではないかなと思うんですけどね。</p>
<p>事務局 (副区長)</p>	<p>今、間宮委員がおっしゃっていただいていたみたいに、そういったことをすることによって町家自体が保全されて、また資源化されて活</p>

	<p>性化されるんですね。だから、そういった部分を組織的にできるような、今偶然そういった形になったというお話ですが、前に京都にも視察行かさせてもらいましたけど、ああいった部分を参考にしながら、こういうふうにしていったらどうだといったところでご議論をいただいたなというところなんですけど。</p>
<p>間宮委員</p>	<p>また、僕自身でそういうのを参考にずっとアーカイブつくって資料にしてもいいんですけども。やっぱり、みんなでやっていけばこう盛りあがっていくと、ここも空いている、ここも空いているよという物件も出てくる。では、そこを使いたい人があらわれてくるみたいなものがわあっと広まっていったらいいかなと思うんですよね。そういったことを何かやりたいですね。</p>
<p>事務局 (区長)</p>	<p>そうですね。見事な偶然といいますか、見事な偶然が生み出すようなそういう仕組みというか場ですよ。だから、必要としている人と店などを出したいと思っている人とかの出会いの場づくりみたいなものをどう仕組みとしてつくっていくかというのを考えていただきたい。</p>
<p>間宮委員</p>	<p>僕は以前大阪の堀江でやっていたことは、古い家具屋さんが空いたんで、そこに東京の資本のファッションとか、カフェを紹介して、デザインしてやっていって、ほんと何年かたつとかわっていった。そんなスピードはできないと思うんですけども、それもお寺も大道筋も何かそういうものがきっかけでかわっていけるんですよ。それも時代性というのがあって、そういった意味で今だったら観光っていうものが、閑空もありますし、イオンもできたということもあるし。そういう町家とか古いものがあたらブームですよ。ものすごくいいタイミングだと思うんですよ。だから、あんまりゆっくりしてたら、また乗りおくれてしまって、ブームに乗っていかないかね。</p>
<p>川上委員</p>	<p>古い建物を処分するとき、あるいは貸すときには区長に届けなあかんとか、そんな法をつくれれば、抑えられるのではないのでしょうか。</p>
<p>事務局 (副区長)</p>	<p>規制を緩和するような取組であったり、逆に何かするときにはちゃんと届けてねっていうふうな取組もね。できればいいかなということで、考えていきたいなというふうに思います。</p>

間宮委員	<p>矢本さんなんかね、そういったことを商店街でされていて、それは町家じゃないです。今は同じこと。</p> <p>今、仕組みはもうちゃんとつくられているんで、こちらは。</p>
矢本委員	<p>実際はテナントミックス、商店街が寂れてきているので、テナントミックスしていかないとあかん。魅力的な店舗を誘致して活用していかないとあかんというところで、正直うまく誘致してこれたらいんですけど。なかなかそういうことってうまくマッチングできないので、それであれば、会社で借上げてやっていこうと。今まさに、間宮さんがやられているのと同じですけど、それが一番手っ取り早いので、自分のところの会社で借上げて、自分のところで必要なテナントを入れてしまうというのを動かしてってるところなんですけどね。</p> <p>なんにしても、こういうのを進めていくにはまず情報が要ると思うんです。なかなかそうやって条例をつくったりとかは先の話になってしまうと思うので、そういう意味ではここで出ている堺まち案内所ですか、これ開設されるんですよね。</p>
都市景観室	<p>6月からになります。</p>
矢本委員	<p>6月からというのは、ちょうどうってつけかなと。ここで例えば町家の情報を集約するようなことっていうのは、比較的成本もかからずに安易にできるんじゃないかなと。町家相談所みたいな形で、誰か1人、できれば職員がついているとか。例えば、週末だけ常駐していますよとかいう形で受けつけられますとか。そこによって、今、間宮委員が言っていたような貸すことであつたりとか、何かそういうもののマッチング、探している人もそこにちょっと聞きに行く。貸してあげたい人もそこにやるというので、少なからずその辺の確率っていうのは高めることができるんじゃないかなとは思いますが。</p>
間宮委員	<p>町家マッチングみたいな。</p> <p>なんやねんっていうとこういうことなんですという。そういうキャッチフレーズはすごく大事だと思うんですよね。</p>
桂委員	<p>川上委員が言われたようにね、この町家の案内ができるのであれば、窓口へいるだけじゃなくて、ここええなと思うところへこうビラでも入</p>

	<p>れてね。あんたところ潰すときには、他に移転したいときには、私とこの事務所へちょっと相談してください。自分の家がこんな値打ちあるんですよといったような、そういうのを自覚してもらってというか、そのチラシでも入れて、持ち主にわかるようにしておいたらよいのではないか。古くなったから潰してしまう、今やったら駐車場にしようとか思って、どんどん潰しているところ多くなってきていますよね。だから、そういうのをやる前に一声かけてもらったら、こういう助成金の制度もあるし、借りたいという人もいているから、一度声かけてみましょうとか、あまりお金かけずにここの人もこれせつかくこれできるんだったら、こういう町家案内所っていったら、こういう公的などこやったらもう一遍相談に行くなり、何かお話聞きに行こうかなってなるのではないかと思いますけど。これやったらすぐにでも組織つくらんでも、今ある何か活用してやっていただいたら。</p>
都市景観室	<p>堺町家案内所もようやくできたところばかりで、中も内装もまだまだこれからという状態です。協議会の中で借上げていただいて運営していく中で、どうやって活用しようかというのは、まだまだこれからで、週に何回開けるかなと考えています。役員さんが中心で今運営考えられている中で、やはり10人足らずの中でどうやっていくかという段階です。ですから、もっと周りでご協力いただける方どんどんふえていって、それがうまいこと回るようになって、そういうことがどんどんできていくのかなと思うんですけど。なんせまだできたばかりでということが正直ございます。</p>
桂委員	<p>僕ら素人が見えて全然ないけども、先ほど間宮先生言われた家などは、毎日通るところですけどね。僕らはそこまで発想しないけれども、単に古なってきたなって思うくらい。でも、あまり古くなった家住むのもいややから言うて、別のアパートに隣に住んでいて、空き家にして置いてある。プロの目で見るとおられたら活用したいなっていうのを、その持ち主も思っていないし、近所も思っていないんですけど。アイデアを持ってはる人とうまいこと、そういう結びつきをされるような事務所にしてくれたら一番いいですけどね。そこができるよ。</p>
都市景観室	<p>そういった情報が集まっていただけの場合になれば、本当にいいな。</p>
矢本委員	<p>まずは、大道筋の調査でもこれ、228の事業者ピックアップしてや</p>

<p>事務局 (副区長)</p>	<p>っているわけですね。アンケートを送っているわけですね。同じことって、比較的ローコストで簡単にできないですかね。</p>
<p>矢本委員</p>	<p>町家に対してというような。</p> <p>町家の所有者に対しての意識調査的のところですね。今後、例えば、承継する人間がいるのかいないのかとかですね。貸すつもりがあるのかないのかとか。売却するつもりがあるのかないのかみたいな。実は、私も商店街、それをまずしたんですよ。自分ところの商店街で、近隣に対して全部。ちょっと三商店街組合で新しく事業をちょっとやっっていこうと思っているので、事前に所有者の人に関して、全部送っているんです。</p>
<p>事務局 (区長)</p>	<p>こちらでもやっているんですけども。そういったところの現状をある程度必要な情報を把握するというのが、前提条件になるのかなと、こういうことを考えていくうえで、それは何らか我々のほうでもどういう方法がよいか、我々ちょっと中で議論してみたいと思いますけど、検討したいと思います。</p>
<p>事務局 (企画総務課長)</p>	<p>今の大道筋周辺というのは量的にまちを改修するということは公共も民間もなかなか難しいと思います。そこに投資をしていくということがまち自体にそれだけの価値があるのかという部分がございます。ですから、その投資をふやすという意味とその価値を高める、周辺エリアの価値を高めるということを両輪でご議論いただきたいなと思います。その量をふやすというシステムづくりというのは間宮委員の頭の中でもうあると思います。いろんな宅建業者とか建築家とかそういうものが協議会をつくって、あとはそれに需要があるかどうかです。矢本委員には、今されているガシ横マーケットとか、まちなにぎわいとか。そういう視点で、そういうコストを投資するようなどう企業を呼びこめるかどうかであったり。あと、信田委員とか佐野委員には、そういう外国人がインバウンドで町家に来たときに、例えば病院が対応できるのかとか。高齢者の問題。桂委員のほうは、そういう周辺住民とのトラブルとか、そういう視点のご意見とか。その数をふやしていくということは、まちが魅力を高めるということで、両輪でございますので、そういう部分で、いろんな視点の先生方がここでお集まり</p>

<p>矢本委員</p>	<p>いただいていますので。町家の数を調べて、それをふやすということだけでは、公共はそこまでお金出せませんから、民間が投資を高めていけるようにこのエリアをいろんな部分で価値が高まるようご議論、ホスピタリティというのも重要でございますので、よろしくお願い致します。</p> <p>ひとつには、間宮先生が言っていたみたいに、ある程度固めないと魅力ないと思うんです。堺では回遊性を高めましょうという議論が多いですけど、外から来た人からしたらわからないですよ。ある1点ひとつの場所でもある程度集約したところってのをつくっていかないといけないと思うので、そういう意味では今もうすでに間宮先生がやっていることだったり、谷本委員、きょういらっしゃらないですけど、何かその近くにそういう情報を集める中で、貸したいとか売りたいとかいう情報が集まってきたら、そこを重点的にそういうふうなものをつくり上げていくことが、全部移築してってなかなかコストがかかって大がかりになって難しいと思うんですけど、その周辺数十メートル、数百メートルの中に何軒か。そういうのが集約して活用できる町家が何個かあれば、より見せやすいのかなと。PRしていきやすいのかな。堺にもこんな場所あるよっていうのを見せやすいのかなとは思いますが。</p>
<p>事務局 (企画総務課長)</p>	<p>本物というのは数少ないと思います。ここの北部環濠のエリアは、まさに本物が固まっているということで、これも公共が投資して文化財の保全の意味であったり、修景であったり。ここはやっていきますけども、他の点在している部分は、ある意味にせものでもいいと思います。そういう建築協定を結んで色を統一するとか、そういう部分で魅せていくと。そういう意味で、区長が言っているように、点を線・面というふうに広げるということで。ただ、ハード系の整備というのは単に見た目だけの問題ですから、それ以外に物販でいろんな個性的なものが近隣に売っているとか、お寺でちょっと一種のアートのイベントがあるとか、そういうもので人を呼び込んでいくと。そういう視点で人を呼び込むというのは、町家というキーワードですけども、いろんなご利用ができると思いますので、その点でよろしくお願い致します。</p>
<p>岩田会長</p>	<p>ありがとうございます。今後の方向性だけじゃなくて、要するに方</p>

	<p>向性を考えるときに既に具体的な案、こんなやり方あるよというようなことも含めて、いろいろご意見頂戴してありがたいなと思ってます。</p> <p>去年、一生懸命やったことで、成果として次につなげないといけないんです。予算化もお話されていたと思うんですけども、お金も一方で大事なかなというのと。それから、今話が出ていますようなことだと、どんな部署、どういう人材がそういうことに関わって、例えば役所の方が一緒にやってくれるのかなという。そういう当てにできるような何かありますか。今のままじゃダメなので、新たにつくっていきたいというようなそういうことでももちろん、お願いできればなと思うんですけど、どうですか。</p>
<p>事務局 (企画総務課長)</p>	<p>我々が考えておりますのは、ここでいろんなアイデアベースでも結構かと思えます。沿道の方のアンケートをとった方に集まっていたいて、それはいわゆる我々はプレイヤーと考えています。NPO団体であったり、近隣の事業者、企業、お金にもできれば出していただきたいと。汗もかいていただきたいと。我々も当然一緒になってやります。それと庁内委員会。これは各ハード部局であったり、観光であったり、公金を執行する部局です。庁内がどういう事業をやっているのか、現場のプレイヤーの方がどんなことを考えているのか。ここで専門の委員の方がそれについていろんな意見を言うていただく。この3つの仕組みがうまく情報共有することで、大道筋のあり方、あるべき姿、10年後の大道筋であったりとかですね。そういうのが見えてこないかなということ。ちょっとこれは距離がありますけども、その中で短期的な目標として1年後、3年後というものを押さえていくのかなということを考えております。なかなかそのプレイヤーの方が民間でやるということなので、行政が直接やるよりは時間がかかるかなと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p>
<p>岩田会長</p>	<p>行政のほうでは、どういう手の貸し方をするんですかね。</p>
<p>事務局 (企画総務課長)</p>	<p>考えておりますのは、当然公共がやろうとしているハード系の事業があります。補助金もそうですね。地元の場づくりで集まった沿道の方がそれなりの想いがあると思うんです。例えば、自転車道をつくるのであれば、こうやってほしい、ああやってほしいと。地元の意向をくみ取った中で、いろいろ付加価値をつけていけるような活動になればいいと考えております。その中で、もっと地元の住民の方がより効</p>

	<p>果的やと思えるような公費の投入にかえていくということでございます。</p> <p>先ほど間宮さんがおっしゃってたような、そういうマッチングなんかも地元の方が中心になってやってほしいと我々は考えています。</p>
岩田会長	<p>地元の方だけでできないですよ。さっきの情報が今ないという状況の中で、町家といっても町家がどこにどんな形でどれくらい残っててどういうふうを活用できそうなのかなという。アンケートも今からもやるとしたら、誰がアンケート対象者になるかなということの、とっかかりの情報をまず知りたいなと思います。</p>
川上委員	<p>さっき偽物でもいいという意見ありましたよね。偽物ということは今つくったものということです。今つくるんだったら、今つくる基準を創れば、市長が言われてる 100 年の計が生きて、100 年後には素晴らしい街になります。今つくる新しい家でも何か条件さえつけといてくれたらよくなるんじゃないですか。長いスパンで考えてもらったら。</p>
事務局 (副区長)	<p>100 年後のまちをめざしてというような感じですかね。</p>
矢本委員	<p>調査にしてもコストをかけずに、どっかの大学と連携してとかできないんですかね。以前に山崎さん、環濠生活か何か書いてるときにいろいろしてますよね。</p>
事務局 (企画総務課長)	<p>今ほど町家だけじゃなしに空き家という問題があります。それもね。</p>
間宮委員	<p>空き家ですよ。</p>
事務局 (企画総務課長)	<p>目視で基本的にはまずは調査して、その後いろいろ調査を入れる。段階的な調査に入ると思います。地図つくっているような会社が、アルバイトさんを雇って請負でやると思います。我々はそういう調査というものも含めて、例えばここの沿道の NPO さんとかがちょっとみんなで歩いてみることから始めてもどうかなと思ってるんです。業者を雇って調査をするんじゃないにね。歩いてみればまた違うものも見えてくる。</p>

<p>矢本委員</p>	<p>だから、そこの部分を業者を雇うのではなくて、大学生とかそういうふうな研究材料にさせていただいて、まちにも愛着をもってもらう。地元の大学生で限定すると難しいのかもしれませんが、府大さんだったりとか、近くにあるところで研究材料にしてもらおう。その情報を活用していくという。</p>
<p>事務局 (企画総務課主査)</p>	<p>昨年度に視察に行かしていただいたとき、京都なんかも市民の方々のボランティアとかでそういう調査をされたというようなお話もあったかと思います。そういう意味では、いろんな手法がある。その中で、先ほど矢本委員おっしゃられていただいたように、それで価値を見出していくとか気づくということもあると思います。また検討していただければと思っております。</p>
<p>岩田会長</p>	<p>去年の話の中で、校区ごとにそういった発見をしましょうというのがあったので、諮問に挙がっているということであれば、町家にポイントを絞って発見しましょうみたいに、全校区にお願いするというようなこともすればいいのかもしれないですね。</p>
<p>川上委員</p>	<p>これ、北部だけですもんね。2つの校区だけです、これはね。</p>
<p>岩田会長</p>	<p>そうですね。</p>
<p>川上委員</p>	<p>全部やったらまた広がってしまって。</p>
<p>事務局 (副区長)</p>	<p>会長が申しただいたようにね、校区の魅力を発見しようというときに、いいこともあれば朽ち果てた家もあるよという部分で、一緒に情報として集約できるとかね。ボランティアであったりとか、大学生さんに一緒に協力してもらってね。子どもたちと一緒に頑張ってまち歩きをしてもらうとかいうのも非常にいいかなと思ってますよね。そういうのをやってみたいなというふうに思います。</p>
<p>岩田会長</p>	<p>このままいって本当に結論出てくるのかなとか、着地点を見出せるのかというのがありますけども、去年もそんな形で出発して結構いろんな意見を出してくださって、本当にいい答申ができたかなと思ってます。私はその辺は皆さんのお知恵を拝借するというので、す</p>

	<p>ごく安心して信じてますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>お時間もあるかもしれませんが、まだきょうどうしても聞いておきたいとか意見を言っておきたいという方、いらっしやいましたら。他にいかがですか。</p>
川上委員	<p>次回のことを考えますとね、会議はここに来ている時だけ、この場所だけで考えているんじゃないんです。頭にあればずっといつでも電車に乗っていても出てきたりするんですが、今の状態で終わると次のときまで何も出てこないような気がします。何かここをどうするというのが見えないです。見えたところは言ってしまうですんで、それ以上何が出てくるんやろうという辺り整理してもらったほうが、いいと思ひます。</p>
事務局 (企画総務課長)	<p>去年、いろいろ議論いただいて、町家を活用するというで、ことし議論いただくということです。私どもは町家を活用してどんどんふやしていくという手法もあると思うんですけど、ふえていくような相乗効果を生むような周りの環境。それは高齢者が見てどうだとか、子どもが見てどうだとか、近隣住民、観光客が見てどうだとか、そういうものも重要だと思っておりますので、そういうご意見をそれぞれの方のご意見をいただくことで町家をふやせる土壌をつくるというか、そういうことも必要と思ひます。先ほど間宮委員がおっしゃったような町家を本当にマッチングさせるようなシステムづくりというのも一方で考えていくということです。そういう形のご議論をお願ひしたい。ですから、川上委員であれば観光の視点からですね。町家にご案内した例えば外国人の方をどういう形で他にお見せするとか、それが喜んでもらえれば、多分町家をもっとふやそう、投資してでも町家をふやそうという方も出てくると思ひます。そういうようなご議論で進めていただければと考えています。</p>
川上委員	<p>そうすると、北部地域という広い地域じゃなくて、集約した場所ね。その狭い範囲でもいいから、とにかくそういう町家が並んでいると、そういう地域がまず要りますね。間違いなくそこでそういうムードに浸れます。彦根城の前と一緒にすわ。新しい見せもんばかりやけどね。あの状態をつくって、それで人がどんどん来るようだったら、じわっと広がっていくという。観光から言うとそういうことなんです。</p>

<p>事務局 (区長)</p>	<p>今、川上委員おっしゃったようになっていうのは考えられるかなと思います。我々が思っているのは全体の大道筋と沿道全体ですけども。モデル的にその部分にまずは来てもらうということも、それもひとつかなとは思いますが。先ほどからいろんな意見いただいている中で、やっぱり現状把握も必要だなというお話も会長からも伺いましたし。あと、そのためには大学の子らも一緒になってやるとかですね。まちの人も一緒にやるとか、我々も汗をかいてということももちろんあります。それから、我々諮問に挙げているのは、町家の保存・活用ですんで、その仕組み、マッチングのシステムづくりというのも軸として必要かなと思います。それから、そういう今プレイヤーと評議会として意見をいただく場のことをお話させていただきました。そして、もうひとつは関連部局と我々が事務局になってやる。それらがうまく歯車が組み合わさって前へと行くようなそういう仕組みづくりということで、我々としたらこの地域に関わっていただいている現状、自治会をはじめとしていろんな団体の方が取り組みをさせていただいております。そういったものを整理して、皆さんにお示しすることも当然必要かなと思います。そういう中で、実際に活動していただいている団体。あさっても清掃活動がその地域で行われています。そしてその人たちはまた、マルシェという形で朝ごはんを食べるようなことも何か月に一回やっただいただいています。そういう実践的な活動自体もまたありますので、そういうところをこれからどうふやしていくか。それはある意味で、非日常的にやっただいただいているところをより日常化して回数をふやして、頻度を上げていくということも考えられるかと思えます。</p> <p>そして、川上委員おっしゃっていただいたように、非常に川上委員の案内を聞いたら、見ているもの以上に奥が見えて、おおっと皆よその人が感動してくれるんです。そういう話を先生方が、社会の授業でやる話とそれと川上委員が本当にご案内する立場からしていただくような話。さらには、まちの語り部という方もいらっしゃると思うんで、そういう方々が話をしてくれる。そういうものの合わさった輪っかの中から校区でどういう物語を紡いでそれを伝えていくかということも考えられるかと思えますし。そういうところをこれからはずっともうちょっと我々のほうも整理して皆さんにお示しした中で、構造といいますか軸をお見せして、そこへ意見が繋がっていくようなことをまた勉強していきたいと思えます。</p>
---------------------	---

川上委員	はい。
岩田会長	<p>それでは、次にまたつなげたいと思うんですが。前年度の話等が私たちの中にはしっかり、あれだけ頑張ったのにというのもあるので、その辺ともつなげていくということが理想じゃないかなと思う。ただ単に、町家・空き家がどうなのかという話でもなさそうな気がしますので、そのことを私はお願いしたいかなと思います。</p> <p>では、他にご意見等よろしいですか。</p> <p>(5) 応募型地域まちづくり支援事業について (報告)</p>
岩田会長	<p>では、次の案件まだありますので、応募型地域まちづくり支援事業についてということで、ご報告をお願いします。</p> <p>資料4-1、資料4-2について、自治推進課から説明</p>
岩田会長	<p>ありがとうございます。今の応募型地域まちづくり支援事業についてのご報告及び次の募集要項。応募期間が5月13日ですからもう来週ですね。</p>
川上委員	<p>今何件出ているんですか。</p>
自治推進課	<p>こちらのほうで、相談また応募を出すということで、申し出があるのは3校区となっております。</p>
岩田会長	<p>まだ可能性はあるということですね。もう1日。もう何日か。その件について何かご質問等ございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>(6) その他</p>
岩田会長	<p>では、その他については何かございますでしょうか。</p>
事務局 (企画総務課長)	<p>次回の予定についてちょっとよろしいですか。</p> <p>次回の会議なんですけども、6月に開催したいと思っております。日にちはできる限り皆様のご都合のいい日を、今検討させていただいておりますので、早急に調整しまして、日にちのお伝えをしたいと考</p>

	<p>えております。今回は、きょうお示ししました応募型地域まちづくり支援事業の審査をしていただくというのが基本になりますけども、私どもできる限り次回の開催までに先ほど申しあげました大道筋の場づくりのための会議を開いて、その内容をできれば次の会議でお知らせしたい。こういう話があり、いろんな苦勞があり、そういうお声が出るかと思えます。それに関して、ご意見を頂戴するか、先ほど申しあげましたようにそれぞれのお立場でいろんな町家を活用した場合の課題とか。そういうのをまたご意見をいただけたらと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。私からは以上でございます。</p>
岩田会長	<p>諮問事項が町家の保全・活用のあり方についてということですので、そのあたりと大道筋との関わりという形でということですね。</p>
事務局 (企画総務課長)	<p>活用するにあたって大道筋がどういう状態であればその町家に対して投資がもっと起きるかというようなことを含めてお考えいただけたら結構かと思えます。</p>
岩田会長	<p>では次回ということをお願いさせていただきます。それでは、他にございませんか。</p>
岩田会長	<p>4 閉会</p> <p>それでは、以上をもちまして、第1回堺市堺区区民評議会を終了いたします。どうもありがとうございました。</p>